

教科等	授業改善の視点（担当）	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	<p>①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】</p> <p>②学びを深めるための「他者との対話」を意図した ICT 機器の活用の工夫【ICT 機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して「とても」と答えた児童が4割程度であった。日常的に豊かな言語感覚を身に付ける環境を整えたり、学習したことを他へ発信したりする場を設けるなど、児童が意欲的に学習に取り組む手立てが必要である。</p> <p>②「他者との対話」活動を好む児童は多い。対話・交流から得た学びが自分の考えを広げ深めるものになっていると実感する学習を積み重ねる必要がある。</p>	<p>①新しい内容や授業時間の始めの短時間で、本時の活動につながる「1分間スピーチ」「味見読書」「音読」などに継続して取り組み、日常的に楽しみながら言語感覚を豊かにする活動を取り入れる。また、廊下や学年掲示板に児童の学習への取り組みを掲示し、児童の主体性や意欲が持続できるようにする。</p> <p>②対話・交流の目的や内容を学習課題に合わせて明確に設定し、学習支援アプリや共同編集機能を活用し、より効果的な意見交流を行ったり、児童が、自分の考えを対話・交流によって更新していく振り返りの時間を確実に設定したりする。</p>
社会	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して「とても」と答えた児童が3割弱であった。政治や歴史の内容について、自分とつなげて捉える意識をもたせ、自分に関わることとして学習に取り組むようにさせたい。</p> <p>②教科書や資料集などの資料を見て、気付いたことや疑問を書ける児童が多いが、一部、取り組めない児童がいる。</p>	<p>①時事的な話題を生活と結び付けたり、過去の歴史と現在の状況の関連に注目させたりして、学習への意欲を高める。政治に対する意見や、歴史の資料をもとにした自分の仮説など、互いの意見を大切に聞き合う雰囲気をつくり、様々な意見をもとに自分の考えを深めていく楽しさを味わわせる。</p> <p>②学習者用端末にデータ資料を送り、学習のまとめや新聞づくりの際に活用できるようにして、苦手な児童が取り組みやすいようにする。</p>
算数	<p>①数学的活動に意欲的に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付ける【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①全国学力調査によると知識・技能が平均よりも上回っているが、数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質を理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける必要がある。</p> <p>②大型画面にデジタル教科書を映し、作図や面積の学習などにおいて、問題を視覚化させることで、児童相互に確認することができ、重ねた図がずれている場合、角の大きさが等しいか、対応している辺の長さの比が一定かについて自ら調べる活動へと繋がりがやすくさせた。多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える児童が増えた。</p>	<p>①全体の間ではできない発言や質問をペアやグループにすることで、他の児童に対して発言することができる可能性がある為、学習面、人間関係面を考慮して学習効果の期待できる意図的なペアやグループを構成する。</p> <p>②学習支援アプリで全員の意見や考えを教室全体で共有させることで、児童の考えに互いに触れ、考えを深めたり広げたりすることにつながる。なかなか自分の考えが進まない児童も、他の児童の考えをヒントに集中して取り組ませて、学力差を埋める。</p>
理科	<p>①問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力の習得【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①初めて行う実験に対して、安全面での注意点を守り意欲的に取り組むことができた。一方で、積極的に実験に関わろうとする児童に任せきりの児童も複数いた。学習内容と、既習事項や自身の経験とを関連付けて予想を立て、ノートに書くことができた。しかし、それらを全体交流の際に積極的に発信できる児童は学級の約3割であった。</p> <p>②児童は、技能的に学習支援アプリを使いこなすことができている。課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課題である。</p>	<p>①実験・観察は班の人数を少なくし、班の中で役割分担して、一人一人の活躍の場が多い授業をする。引き続き、薬品や実験器具の安全な取り扱い方を丁寧に指導する。児童の意見の良さを価値付けることで、発表することへの自信をもたせる。また、必要に応じて意図的指名を行い、児童の活躍の場を増やす。</p> <p>②学習支援アプリを更に活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していきそれによっていろいろな考え方を結び付けられるようにする。</p>
音楽	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるため</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が97%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②プレゼンテーションアプリを活用した課題提出に意欲的に取り組む</p>	<p>①さまざまな楽器演奏の活動に加え、表現する楽しさを学ぶために、身体を使った活動を取り入れる。また自己の表現方法を発表し合い、意見交換をしながら、全体のまとめにつなげる。個々の完成度を上げることで全体の演奏の完成度を上げるように、基礎的な指導をする。</p> <p>②自己表現のツールとして、録音機能なども活用しながら、振り返りに結び付けら</p>

	の ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	姿勢が見られた。自己の興味のある分野を調べられていることから、知識、思考の高さが伺えた。一方興味、関心がない児童は何をしているのかわからず、授業に参加できない場面も見られた。	れるようにする。また様々な世界の音楽など実際に行くことのできない場所や触れることのできないものの世界観を見ることで、興味関心をもてるような活動につなげたい。
図画 工作	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】 ②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】	①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 96%であった。この事からほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考ええる。	①引き続き児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりに努め、今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して 96%以上の肯定的な回答を得られるようにしていく。 ②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習者用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。
体育	①自己の課題に合わせた体育的活動の充実【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】	①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童がほとんどであった一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」の否定的な回答が 4%ほどいた。少数ではあるが、進んで学習に取り組めていない児童が意欲的に取り組めるように工夫が必要である。 ②動きのポイントを理解していても、自己の課題を適切に把握できていなかったり、その後の運動に生かしたりできていない児童が多いため、自身の実態を把握することが必要である。	①運動することに苦手意識をもっている児童も意欲をもって取り組むことができるように、それぞれの運動領域の中でも取り組みやすい技や動きをはじめに紹介したり、主運動につながる予備運動に取り組んだりする。また、ボールゲームなどの領域においては、ルールを簡易的にしたり柔軟なルールを考案したりしてすべての児童が取り組みやすい工夫をする。 ②運動のポイントを写真や動画で示すことに加え、ポイントと自己の動きを比較できるように、ICT 機器を活用し自分の動きを撮影して把握できるようにする。また、撮影した映像などを用いてポイントと照らし合わせながら振り返りを行う。
家庭	①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②学びを深めるための効果的な ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、4 項目とも「とてもそう思う」と答えた児童の割合は、5 割未満だった。清掃や調理実習などの活動が多い学習では、意欲的に取り組む児童が多い。一方、実習以外での新しい知識を得たり、既存の知識を結び付けたりする学習内容への関心は低いようだ。 ②自分の身の回りから問題を見つけていくことに難しさを感じている児童が多い。「他者との対話」を効果的に学習活動に取り入れ、児童が「できた」「わかった」を実感できる授業作りが必要である。	①授業に主体的に参加できる機会を増やすために、学習者用端末を効果的に用いて、児童から多様な意見や考えを引き出す。特に 2 学期の製作活動では、児童がめあてを達成する楽しさを味わえるよう、毎時間のめあてを児童にとって分かりやすく明確に設定していく。アンケート回答のポイント上昇を目指す。 ②①と同様に、学習者用端末を効果的に用いて、児童から多様な意見や考えを引き出したり、友達の意見や考えに触れたりする機会を増やす。
外国語	①言語活動の充実。自分の言葉で「考え」「伝え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②ICT 機器利用を通して意見を示させ、共有させる工夫【ICT 機器の活用】	①各単元のスピーチ等では英語で伝える内容を自分で精選し（「考え」）、その内容を英語で「書く」という活動にすすんで取り組む姿が多く見られる一方で、特に「書くこと」に関しては難しいと感じる児童も一定数いる。 ②アンケートの「授業中、すすんで学習している」という肯定的な回答が 89%となっており、児童の理解を助けたり児童の関心に沿った学習活動を行うため ICT を有効利用したりして、外国語の学習へのモチベーションを高める手だてが必要である。	①小学校において必要な「文章を書き写す力」を伸ばすため、1 学期末から英文をノートに書く、へボン式で色々な人の名前を書く活動を帯活動で取り入れ、全員の書く力を伸ばす。small talk においては話すテーマや相手を意図的に決め、話す場を設定する。話型を習得するために、1 学期から行っている読みの宿題を 2 学期以降も継続し、使える語彙と実際に使う場の両方を増やして、即興で話す力・意見を示す力を伸ばす。 ②学習者用デジタル教科書を用いて個々に必要な速さや内容の英文に触れる機会を増やし、各児に最適な学びを自分で選択して学ぶ姿勢を身に付けさせる。また授業内の small talk やスピーチの際にも学習者用端末を使用して、自分の意見をより分かりやすく伝える助けとする。授業アンケートにおいて、「すすんで学習している」という質問項目に対し肯定的な児童が 91%を上回ることを目指す。
道徳	①主体的に自己を見つめ、生活に生かそうとする授業の充実【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた、自己の考えを深める授業の充実【ICT 機器の活用】	①資料から登場人物の気持ちに寄り添ったり場面から様子を想像したりすることはできるが、自己の生活に結び付けて今後に生かそうと考えることが難しい児童が多い。 ②自分の考えをもつことに時間を要したり、表現したりすることに難しさを感じている児童が多い。	①授業の導入や教師の説話で児童の身近にあるような話題や出来事を取り上げ、児童が自己の生活に結び付けて考えやすいように授業を工夫する。 ②学習支援アプリ等を用いて、書くことに苦手意識がある児童も自分の考えを表現しやすいうようにする。また、学習支援アプリを活用して考えを共有する時間を設け、自己の考えを深める機会を増やす。

